

知ろう！風疹 ～舞台「遙かなる甲子園」から学ぶ～

この物語は1964年沖縄で風疹が大流行し、その時の妊婦さんから産まれた子どもの多くが聴覚に障がいを持っていました。そんな彼らが甲子園を目指し、彼らの前に立ちはだかる数々の大きな壁に打ち勝った本当にあった感動のお話です。



風疹をなくそうの会『hand in hand』主催

関西芸術座公演

遙かなる 甲子園

2019年1月14日(月・祝)

開場 12:30 開演 13:15

場所 **大阪市中央公会堂**

(大阪市北区中之島1丁目1番27号)

入場無料

※先着順でのご案内とさせていただきます。
満席の場合はご入場をお断りさせていただきます。ご了承ください。

知ろう！風疹！

- ★「風疹」という病気を知っていますか？
- ★妊婦さんが風疹にかかるとお腹の赤ちゃんが障がいを持って生まれてくることがあることを知っていますか？

大阪市中央公会堂交通アクセス

大阪メトロ 御堂筋線・京阪電鉄 本線
【淀屋橋駅】①番出口 徒歩約5分
大阪メトロ 堺筋線・京阪電鉄 本線
【北浜駅】⑨番出口 徒歩約3分
京阪電鉄 中之島線
【なにわ橋駅】①番出口 徒歩約1分

風疹はMRワクチンで 防ぐことができます！

- ★風疹による障がい(先天性風疹症候群)は
なくすることがきけるのです。
妊婦さんが風疹にかからないように…
流行らせないように…
あなたが感染源にならないように…
**風疹のことを知ってMRワクチン接種を
してください。**

私たちは2020年までに風しんの完全排除を目指しています！

知ろう、なくそう。風しん

風しんはMRワクチンで予防できる病気です。



MR ワクチンを打って社会全体で未来の赤ちゃんを守ろう！
風疹をなくそうの会『hand in hand』

クラウドファンディング ready for「風疹をなくそうの会」

検索



風疹をなくそうの会『hand in hand』



私たちは、日本で再び風疹が流行をしないようにするための情報発信、流行によって影響を受ける女性、こども、家族のサポートをするために集まった妊娠中に風疹に罹って出産した母親と先天性風疹症候群の当事者グループです。女性や赤ちゃんが安心して街を歩ける社会をめざして、皆で支えあいながら活動をしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

E-mail stopfuushin2013@gmail.com

Facebook <https://www.facebook.com/fuushin2013>

Twitter @knimama

Instagram @stopfuushin2013



〈絵本〉

ひとりのちから

私たちの想いが皆様に届きますように
絵本を作りました。
ダウンロードもできます。

なぜ大人の風しんが増えているの？

～子どもの頃に予防接種を受けていない大人は、感染しやすい～



平成24年から25年にかけて発生した風しんの流行では、20歳代～40歳代の男性を中心に、大人の間で感染が広がりました。なぜ、子どもよりも大人の風しんが多くなっているのでしょうか。それは、子どものころに風しんにかかったことがあるか、あるいは、風しんの予防接種を受けたことがあるか、ということと深く関係しています。

風しんは、一度、自然に感染すると、生涯続く免疫が体中につくられるため、その後、風しんにかかることはないと言われています。この免疫は、風しんワクチン(病気を起こす力を弱めた生の風しんウイルスを含む弱毒性ワクチン)を接種することでもつくられます。日本での風しんの予防接種制度は、昭和52年8月から、「中学生の女子」を対象とした学校での集団接種によってスタートしましたが、これまで制度改正のために予防接種の対象者や接種回数などが何度か変更されてきました。

この変遷の中で、予防接種を受けられなかった人や受けなかった人、かつ、風しんにかかったことがない人は、風しんに対する免疫がないため、大人になってから風しんにかかるおそれがあるのです。近年の風しんの予防接種実施率は9割前後となっていますが、定期接種を個別接種で中学生の時にを行う必要があった昭和54年から昭和62年に生まれた方では接種率が低くなっていることが分かっています。一方で、昭和37年以前に生まれた方では定期接種の機会がありませんでした。平成2年4月2日以降に生まれた人は、全ての人が2回の予防接種を受ける機会があります。子どもへの予防接種が広く行われるようになり、子どもの間で風しんが流行することはほとんどなくなりました。このため、近年では風しんに対する免疫が十分でない大人の間で風しんの流行が見られています。

政府広報オンラインより抜粋